

館旅
屋三

作山清七

黒川喜平

平紺屋町(電話五〇七番)

和泉屋 鈴木 克 衛 小高銀行組合

電話三八番

相馬郡小高町 御料理 亀

相馬郡小高町 御料理 西村屋

相馬郡小高町 縣社小高神社 事務所

相馬郡小高町 御料理 和泉屋

相馬郡小高町 鈴木 克 衛

相馬郡小高町 小高銀行組合

磐城立憲新報

政戦を顧みて

秋風落葉の政友派 優曇華咲く民政黨

天高く 征馬頻りに嘶くかと云ふに其の餘りに我
來るべき縣會を目眩に控へ黨天下の信頼に過ぎざること
石城の政界は愈も多事なら 極端な選挙干渉露骨な地方
人として居る、既に開期間官の異動等に對する反感、
題に就き縣會の一角には、自惚根性の増長に依る柳下
政、民兩軍の間に砲烟の蒙るを夢みた事等を數へざ
るたるを見る、果して今後を待たない、純地方戦に臨
政機は、何う動く乎、石ひに、舊套依然、政府萬能
の場として知られ、世人新戰場に、火繩銃ほど役立
をして「政派に非らずんばつとも覺えぬ」干渉の古
人に非らず」の感あらしめ武器を持ち出したなどは、
たが、這般の縣議戦の結果聊か御運の末と云はざるを
や如何、秋風轉た落葉たら得まい、而かして文化式新
ざるを得ない、尤も當選率 武具たる言論機關を輕視し
より見る時は、政三、民三た如きは、主因中の主因と
五分々の勝負とも云へ云ふ可きである

白井遠平翁 特旨を以て昇位

平町空前の盛葬

從五位、元代議士故白井遠平町としては空前の盛儀で
平翁は去る九日東京の自邸あつた
に於て、死去された、享年
八十二歳、長き邊りに於て
は、翁が多年の功勞を稱さ
れ、特旨を以て從五位に叙
せられた

翁が八十餘年の永い生涯
は悉く本郡の事業史縣政の
頁にある、平町今日の發展
が翁に負ふ處は蓋し尠少で
あるまい、壯時郡長の職に
在つて、郡政に貢献され又
に踏まえて、萬年瓦に代用
するが丹後澤の人柱にして
了ぶが宜い、孰れにしても
それは尼子橋の下に、鰯が
平町の出口たる平驛は、直
地理的に餘り恵まれ過ぎて

縣會招集期 來月廿日頃か

三井呉服店の
特別大賣出し

印刷物の御用は
常磐毎日印刷所へ
電話六三〇番

本甲斐絹羽織裏壹圓
六拾錢、着尺モスリ
參圓八拾錢
と云ふ他に例なき破格の値
段のため買行き飛ぶ如く殊
に同店自慢の足袋は一日の
足袋の賣高一日三千以上
安いで大評判

月二十日頃招集に決定する
模様である

段の穴から 人さ水の間違ひ

「人の悪いは石城の平」……
恐らく、是れは名物ジャン
ガラ節の文句ではあるまい
全く知らぬ他人様の鼻唄に
過ぎない——とは、百も二
百も存じて居る、果然平
町の慷慨家は、切齒扼腕の
て「水の悪いは石城の平」
……と訂正して居るが、何
も新與の氣運にヒカリ輝
く平町民に取つては、甚だ
……と訂正して居るが、何
も新與の氣運にヒカリ輝
く平町民に取つては、甚だ

報新憲立城磐

日七十月四年二十三正大

可認物便郵種三第

日五十月十年二和昭

(一)

民衆政治家の典型 鈴木辰三郎氏



熱の人……力の人……
抱擁性に富む……

す未ある地方政客に取つては一大試金石であつた、普通から云へば鈴木辰三郎氏の當選は餘りに當然過ぎるに屬するが、

這次の普選による縣議選は此の新機運の黎明に於て、政界に新らしき時代を畫す最高點を以て何の苦もなく、重大意義を有するもの當選の榮冠を戴いたとは明であつて、既成政黨の地盤から氏の大政治家として、動搖龜裂を生じたとは其の未來を語るものである、

の結果が争はれぬ事實を示將來『福島縣選出代議士』として居る、随つて、屑々たとして、國政を荷ふべきは群小候補者輩はイザ知ら當に氏を措いて、他に求む

べからざるが、立派に試を得たといへば、来るべき功績が、最も雄辯に驗済みとなり、廣く立證され、縣議の議長椅子は當然氏物語つて居る、石城郡下の日より見れば、氏が縣議と既定の事實であつたのである、

して覇を争つたことは、寧ろ、惜むらくは堅子をして出さずは出来まい、而かじろ牛刀を以て、鳥を割くの名を爲さしむるに至つた併て其の悉くが成功して居る

感がある、恐らく氏も斯く乍ら平生の抱懐論論點は他の眞似を許さない、な腹の中であつたらうと思ひ、區々縣議長の椅子は鉄を灼する熱の人で像される、殊に今回の縣議子位は左まで問題にはしてあり、山を抜く力の人であ

戦に當つて、民政、無産の居らないだらう、氏の現在と共、其の縦横の奇策

強敵を向ふに廻はしなから石城選出縣議、政友石城は福島政派の智囊と稱され

政派には新舊の二潮流あり部長であるが、其の實質勢で居る。殊に氏の心を心服

時に波浪の脚を洗ふと云力に於て、既に代議士以上させる所以は、功にも誇ら

ふ状態にあつた、此の間も政友福島支部長である、氏なければ、氣取りも威張り

く味方の足を並べ亂ださず、が福島縣の政派を提げて、もせず、一切の如何なる

無人の曠野を行くが如く敵國政壇上に獅子吼するの期に對しても、此の城府を

陣中を縦横無盡に濶歩した蓋し遠き將來のとはな設けぬ、天空活潑の抱擁性

其の颯爽たる武者振りは、いと思ふ。氏が高遠の理想を持すると衆政治家としての、未來あ

確かに氏が一黨を率ゐて、同時に、實際政治としての、手腕力量に富むるものであ

縣下の政界に號令すべき器たるが想見される、若し政派が大勢の上に盡

小名濱築港の

大恩人小野晋平氏

父子二代の努力の結晶

小名濱築港問題は獨り小名恩人として、小野晋平氏の濱町の死活問題と云はる裏面に於ける功績は、小名濱の繁華振興上の重大性質濱港のあらん限り永遠に没を帯びる多年の懸案であつせんとして没するとは出来たが、別項の如く内相官邸ない、其の長い間の奔走努力に開かれた臨時港調査會力は涙ぐましいものがあるに於て、第二種重要港灣に氏が斯くまで小名濱港の爲指定され原案通り修築の確め献身の努力を拂ふに至つ定を見るに至つたとは、小たのほ、全く故父小野賢司名濱町民の幸福に止らず、氏の遺志を繼承するもので城産業界百年の計が成つて、今日の成功は實にたものである、假令それが小野氏國家的に必要があつたもの▲父子二代に亘つての身命にせよ是れには隠れたる大を培つた努力の結晶である小名濱築港の完成であらね

賢司氏は曾つて縣會議員とばならぬと、好し!!一生をして縣治上の功勞から此の問題に献げやう、それる人であるが、地方開發の晋平氏の活躍振りは基礎として、小名濱築港に▲鬼神も泣くものがあつた重大意義を認め、爾來寢食の如き熱誠は何時か認めを忘れ、あらゆる犠牲を拂られずには居なかつた、遂に父の跡を繼いで縣會議(松茸生同町研町の角のお籠葉落)▲田町驛通りの鮪汁は

▲中町牛屋石川の越後生れの姐さんは流石それしや上りたけにお愛嬌ぶりが垢抜けがして居る

▲同町牛屋石川の越後生れの姐さんは流石それしや上りたけにお愛嬌ぶりが垢抜けがして居る

▲同町牛屋石川の越後生れの姐さんは流石それしや上りたけにお愛嬌ぶりが垢抜けがして居る

理性と涙の人

武田精一氏

數奇を極めた半生

地方電燈會社が、獨占と云ぬ。

需要武田氏の半生は坊サン

の公益を無視し、暴利を官吏——實業家と。運命の

貪ぼり社長重役等が酒池肉數奇を極め、幾多傳記的波

林に長夜の宴を張りつゝ、あ瀾を以て充されて居る此の

の暴狀は、高壓線以上の尊い苦悶は世味の酸いも、

危険を。醇朴な地方人心に甘い嗜み締めさせて、

與へて居る、今や縣下各電燈理性と涙との渾然玉の如き

燈會社に勃發しつゝある電人格を作り上げた、前主任

燈會社問題の如き、需要者時代の出張所は一般的

對會社間の經濟問題たるに可なり非難の聲が高かつ

外會社重役等の高慢面に對したるが、氏の赴任以來

する世人の反感に基因する去る忌まはしき聲を聞かな

ものがないと誰れが云へよいは、氏の此の人格と磐

う、郡山電燈が亦御多分に根節の間に養はれた、圓

洩れず目下値下げ問題の大轉滑脱の外交手腕であらう

渦紋中に在るに拘らず、其少し位燭光に不足があつて

の平出張所が四海沈静かにも、氏の誠意は之を充たす

無風地帯に納まりゐるは、に充分である、恐らくは氏

出張所主任武田精一氏の人の在任間は、平配電管内に

格手腕に歸さなければなら紛擾などは起るまい

籠葉落

▲中町牛屋石川の越後生れの姐さんは流石それしや上りたけにお愛嬌ぶりが垢抜けがして居る

▲同町牛屋石川の越後生れの姐さんは流石それしや上りたけにお愛嬌ぶりが垢抜けがして居る

▲同町牛屋石川の越後生れの姐さんは流石それしや上りたけにお愛嬌ぶりが垢抜けがして居る

噂の種

▲真佐の屋の○松姐さんは、近々に平町の子姐さんは平一郊外に文化住宅を建て、三の可愛い顔で、角關係四角戀愛の創作に取

おさづが何よりりかゝる筈で、スツカリ耽

のお好物、此の溺なぞは止めたとか止めな

間も親猫の頭はいと、▲變りもの、藤八

の大きなを七本召し上姐さんは不景氣って何んな

が「妾エあの人が何時もものだらう、煮て食べるも

酒ばかり上がつて何とも云のかしら、それとも焼いて

つてくれないので、お辛が呑むものかしら、妾エ本町

減食したわ」▲文藝家の長の人に聞いて見よ

選挙夢物語

金!! 金!! 金!!

火鉢を蹴つて飛び出したのは、是れも夢の國の南部の或候き一票の取引は、問屋、専ら傳へられて居るが、マ

が鶴嘴の音のカチカチ、山、補者は之しい脳味噌を百圓 仲買、卸じ、小賣、受賣等

順當り幾らでも金に糸目は、東の捻鉢巻で隠し、立候補の設備萬端にらざるはなく

つね、粉炭一奴十兩、

學は又模範市場と化し、清に其の尻の穴の小ささを

サカとも思はれる、何じて

も偉なる哉學俊師快なる哉

思はれぬ、併して同師の特

徴とする處は豫斷以外迷へ

る者を悟らしめ、不運者を

して幸運ならしむの途を授

日本一勉強の金物問屋地知る

金屋商店

良廉賣に勝る商略なし

確實敏捷はの生命なり

常磐線平町五丁目

東部電力株式會社平營業所
所長 武田精一

磐城殖産會社
平町大和田與平氏經營の磐城殖産合同株式會社は創設淺きに拘らず一般の信用厚く好成績を上げつゝあるが營業概目は左の通りである

▲金銀の貸借及仲介

▲動産不動産の賣買

▲債權債務の相談

▲有價證券賣買

たものである、假令それが小野氏
 國家的に必要があつたもの、▲父子二代に亘つての身命
 にせよ是れには隠れたる大を培つた努力の結晶である
 萬部の讀經でもなければ、案の確定を見るに至つたの
 千染萬染の香花でもない、は、全く小野父子二代に亘
 小名濱築港の完成であらねる至誠の賜物である
 取れないがアレで中々(浮
 ▲同町東京屋の妻君酒ばかり上がつて何とも云
 つてくれないので、お芋が呑むものかしたら、妾一本町
 減食したわ)▲文藝家の長の人に聞いて見よ

日本一六勉強の金物問屋地知る 釜屋商店

良廉賣に勝る商略なし
 確實敏捷はの生命水
 常磐線平町五丁目

選學夢物語

金!! 金!! 金!!

▲清一票は財布の中

炭礦地帯の黄金の雨

山手方面のアルコール切手

金庫にうなる數萬圓

秋風瑟瑟、蓬絶へ、雁聲悲しむ、こゝは磐城縣議の古
 戰場!!! 一莖の野花を折つて、理想候補の金貨、札束
 の夢の跡を引へば、折から落葉小判の如く地に藉く。
 夢の國……の、御神燈無いが、懐ろにはドツサリ
 の影がボンヤリして、何處あるものがある、時は決勝
 とも判らないが、凹凸のな線に入る三日前のとである
 い町から立つた候補の一人まげご、形勢振はず、包の
 は、頭には理想も、政見もめごと、味方不利と見て取
 るや奮然として狼狽し、長乙な三味の音……

火鉢を蹴つて飛び出したのは、是れも夢の國の南部の或候
 が鶴嘴の音のカチカチ、山、補者は乏しい脳味噌を百圓
 噸當り幾らでも金に糸目は、東の捻鉢巻で隠し、立候補
 つけぬ、粉炭一匁十兩、そと共、金庫の中にポイント
 りや安いと許り、炭礦地帯秘められたのは、手も切
 そうな三萬圓!!! ついでに、山の手方面はアルコール切
 手に羽根が生へて、畑に飛、田に飛び山に飛び、店
 尚ほ某候補侵入のふれ太鼓び、田に飛び山に飛び、店
 の音を耳にするや、去る暴頭に飛び込む、折りから同
 方圓一味を驅り集め、サア地は——戸別訪問は新選挙
 來い來い!!! 黄金の雨の後の禁する處——彼岸詣りの
 は、鉄拳の雨、九太の棒の客の影しいと當年九十九歳
 は、清一票は赤い血の雨のお婆さん記憶がないと
 だ、一騎當千どころか當萬云つて居る、孰れお佛壇に
 斯は三升切手、五升切手が山を爲したたらう、理想選
 學は又模範市場と化し、清一票の取引は、問屋、専ら
 仲買、卸し、小賣、受買等サカとも思はれる、何して
 も偉なる哉學俊師快なる哉小松師と謂ふべしだ

札束の俄か雨
 分納法で千圓
 飛んで五十圓

小名濱港修築
 築愈よ確定
 第一種重要港に指定
 多年の懸案たりし小名濱築港問題は十八日內相官邸に開かれた臨時港灣調査に於て審議の結果第二種重要港灣に指定され次いで同港修築計畫書を付議されたが是又原案通り可決確定を見るに至り、同町民の熱誠は茲に酬いられたものにて、町民の喜び一方ならず近く大祝賀會を開き従來關係者の慰勞を兼行の筈なりと

磐城宗教界

毛色の變つた小松學俊師

古來「磐城坊主」と稱され、磐城は糞坊主、乞食坊主、カス坊主、我利坊主、の名産地、アル中、僧正、草餅僧、都、重箱律師、賭博阿闍利、の驥北淵敷として知られてゐる、中には幾多有難い名僧善智識の存在する間なきならず、意外な深ふして、容易に世の凡眼には映じない、尤も佛敎徒らに伽藍敎、形式敎に墮落した今日に於ては、愚僧も賢僧も同じく是れ一様の葬式道具、墓番人に過ぎないかも知れないが、こゝは、エライと褒めても而かしそう、無茶苦茶に許少しも差支へはなからうと思ふ

免も角、此の團栗の陳列場、彼れが先づ、此殿堂再建に、嶄然として一頭角を拔當り最も圓頂を構ましたもの驚異を尻目に、一言の挨拶も與へず、悠々と佛間にせよ二萬圓しか要せなかつ職小松學俊師であらう、體壇徒に舊縁なく、法類の據押し上り、天地に轟く大音たにしろ、免も角アレだけ軀二王様の如く偉大に、痘るべき無し、況んや性豪放聲、朗々として讀誦するはの殿堂が、夏草茂げりし廢痕満面溢紙の風手は、閻魔酒を嗜む、金あれば飲み、觀音經の一卷、それが終つ寺跡に、屹然として聳ゆるに似て魁偉、此の二つの所無くても飲みたい彼れだ、て始めて其の家の主人に面を見るに至つた事は、師が中生蓄ふる處一錢半文もあを求め、例の溢紙顔に微笑して平凡なカス坊主下なる筈がない、否、天の美録笑を浮べつ、拙者は四倉いことが窺はれる、爺サン小松如來寺の學俊と云ふ僧婆サン、後家サンの臍線り侶であるぞよ」と錦襦表紙巾着を絞つた所謂阿呆金な屏風大の密附帳を南無陀るもの若干で、古寺の權利の聲諸共恭しく披かれを買つてもぐり込み、一山つて何程かを包んで、ウへは、正に耻死すべきである

小名濱港は横濱鹽釜港の曩きに加藤高明子の死を豫中間に位する良港にして言ひて、天下を驚倒した本さきに漁港修築工事を施邦運命學の創設者、小林宜行せし以來漁船の出入は園師の最高弟安藤嘉信師はもちろん沿海航行の汽船今同町有力家の招聘に應も又本港に入港して風浪じ、同町研町九番地なる松を避けあるひは貨物をもケ岡公園下に仙居を構へ斯吞吐するもの少からず而學の宣傳に努むる傍ら、一もその後方地域には豊富般民衆の爲め、平生の蘊蓄なる炭礦を藏するをもつを傾けて、懇切に各人の運移出するもの増加せり、選名等の依頼に應ずる事に故に本港を商港としてのなつたが、同師は單に依頼設備をなすは獨り地方産者の名を聞いただけに、業の開發に費するのみならず低廉なる石炭を京濱巨る運命を豫斷して寸毫誤地方に供給するを得るをらざることを全く神業としか

安藤嘉信師
 愈よ平研町に卜居
 思はれぬ、併して同師の特徴とする處は豫斷以外迷へる者を悟らしめ、不運者をして幸運ならしむの途を授くるに在る、尙ほ同師は遠隔者の便利を計り返信料共五十錢を送れば通信鑑定を利用するに至るべきはけだし推察に難からず然るに本港はその設備として防波堤並に防砂堤各一基及び物揚場を有すといへども近時漂砂のため港内漸次埋没せられ港灣の價値次第に減ずるの恐れあるを以て防砂工事を施すと共にこれを商港たる設備を加ふるはもつと焼眉の急務なりとす

陪審員名簿の確定

抽籤で三十名を選ぶ
 平町から何人出るか
 陪審員名簿は各市町村に於て作製し去る八日迄を閱覽期日と定め異議申立の期間は去る十五日迄であるが陪審員となれば命せられた裁判の決定まで裁判所内の宿舎に在つて外出や接見も禁せられると云ふので希望するものも無く記名が落ちたものもなからしく資格に依つて登載された人は勿論異議の餘地がないから福島市議の名簿は異議申出期間の終了と同時に確定し十一月に決定し候補者三十名を抽籤で決定し新名簿と共に裁判所に提出すると云ふが抽籤に依る三十名は果して何人なるか裁判所は事件に依つて此三十名中から適當の人を任命するのであるが何人が其選に當り最初の陪審員として法廷に立つか興味を以て觀られてゐる

江名町

御料理旅館

山口屋
志賀寛

三業組合長

柳澤千朝市

神白

神白鑛泉
伊藤國藏

町會議員

吉田藤吉

鑛泉
地切鑛泉
秋山一郎

内科・外科
平川醫院

伊藤百太郎

御料理旅館
旭屋
佐藤半三

前消防副組頭
丹野彦太郎

信用組合長
太清左工門

片寄房吉

江名鐵工場

雄正田吉主場

石川吉松

町會議員
作山清七

消防副組頭

園田善之助

消防小頭

丹野妙吉

消防小頭

伊藤主税

消防小頭

河野房吉

消防小頭

坂本駿男

町會議員

酒井辰藏

町會議員

及川富士太郎

區長

作山柳吉

黒川喜平

當選御禮

縣會議員

鈴木辰三郎

當選御禮

縣會議員

古川傳一

當選御禮

縣會議員

山崎吉平

當選御禮

縣會議員

鷺清昇

内科、外科、小兒科

藤沼醫院

平紺屋町(電話五〇七番)

御料理

和泉屋

鈴木克衛

小高銀行組合

相馬郡小高町

相馬郡小高町

相馬郡小高町

御料理 亀屋

屋

御料理 西村屋

屋

社務所

社務所

御料理

和泉屋

鈴木克衛

小高銀行組合

小高銀行組合

磐城立憲新報

共稅郵價定日行發
每月十五日一日
郵券代用一分二角
増引圓錢
行發 縣島福
平郡城石縣島福
憲立城磐

磐城、入山、好間等の各炭
礦の創設者として、地方事
業界に盡された、偉勳は歿
すべからざるものがある、
本年度通常縣會の開期問題

縣會招集期
來月廿日頃か

月二十日頃招集に決定する
模様である

本甲斐絹羽織裏壹圓
六拾錢、着尺モスリ

三井吳服店の冬衣大賣

十月十五日より
二十五日迄

新館陳列 營業
大擴張 商品豐富

御祝儀一式

江戸襖 京染金貳拾圓よ

本秋の新柄モスリン着
尺階上陳列仕候間是非
御來觀の程希上候

わつとめ特價品

- 一 ニコノ大島 壹圓
 - 一 別染正紺縮 壹圓五拾錢
 - 一 布團縮 七拾五錢
 - 一 本かひき羽裏 壹圓六拾錢
 - 一 着尺モスリン 參圓八拾錢
 - 一 別珍 足袋 二拾五錢
 - 一 一萬足限り
 - 一 白キヤラコ 貳拾錢
 - 一 五千足限り
 - 一 黒朱子 參拾錢
 - 一 五千足限り
- 外に破格品山の如し

三井吳服店

電話三八番